

VIII. その他の資料

1 港湾区域の範囲

現在指定されている中城湾港の港湾区域は、次のとおりである。

知念崎(北緯 26 度 09 分 42 秒、東経 127 度 49 分 58 秒)から、久高島燈台(北緯 26 度 09 分 09 秒、東経 127 度 53 分 12 秒)まで引いた線、同点からブイ No. 1(北緯 26 度 12 分 06 秒、東経 127 度 57 分 18 秒)まで引いた線、同点からセンターブイ(北緯 26 度 13 分 06 秒、東経 127 度 58 分 06 秒)まで引いた線、同点から勝連崎(北緯 26 度 17 分 30 秒、東経 127 度 55 分 26 秒)まで引いた線及び陸岸により囲まれた海面中、軍港(ホワイトビーチ)、泡瀬漁港・中城浜漁港・当添漁港・海野漁港・久高漁港・津堅漁港・南原漁港の各区域に属する部分を除いた海面。



図 VIII. 1. 1 中城湾港港湾区域図

2 港湾の周辺状況

2. 1 経済的・社会的条件

(1) 位置

中城港湾は、日本本土と東アジアを結ぶ南西諸島のほぼ中間、沖縄本島東海岸の北緯 26° 15'、東経 127° 50' に位置する。県都那覇市からの陸上距離は、本港北部の新港地区（うるま市）まで約 28km、本港南部の西原与那原地区（与那原町）まで約 11km、安座真地区（南城市）まで約 20km となっている。また中城湾港新港地区からの海上距離は、那覇港まで約 85km、平良港（宮古島市）約 343km、石垣港（石垣市）約 446km である。

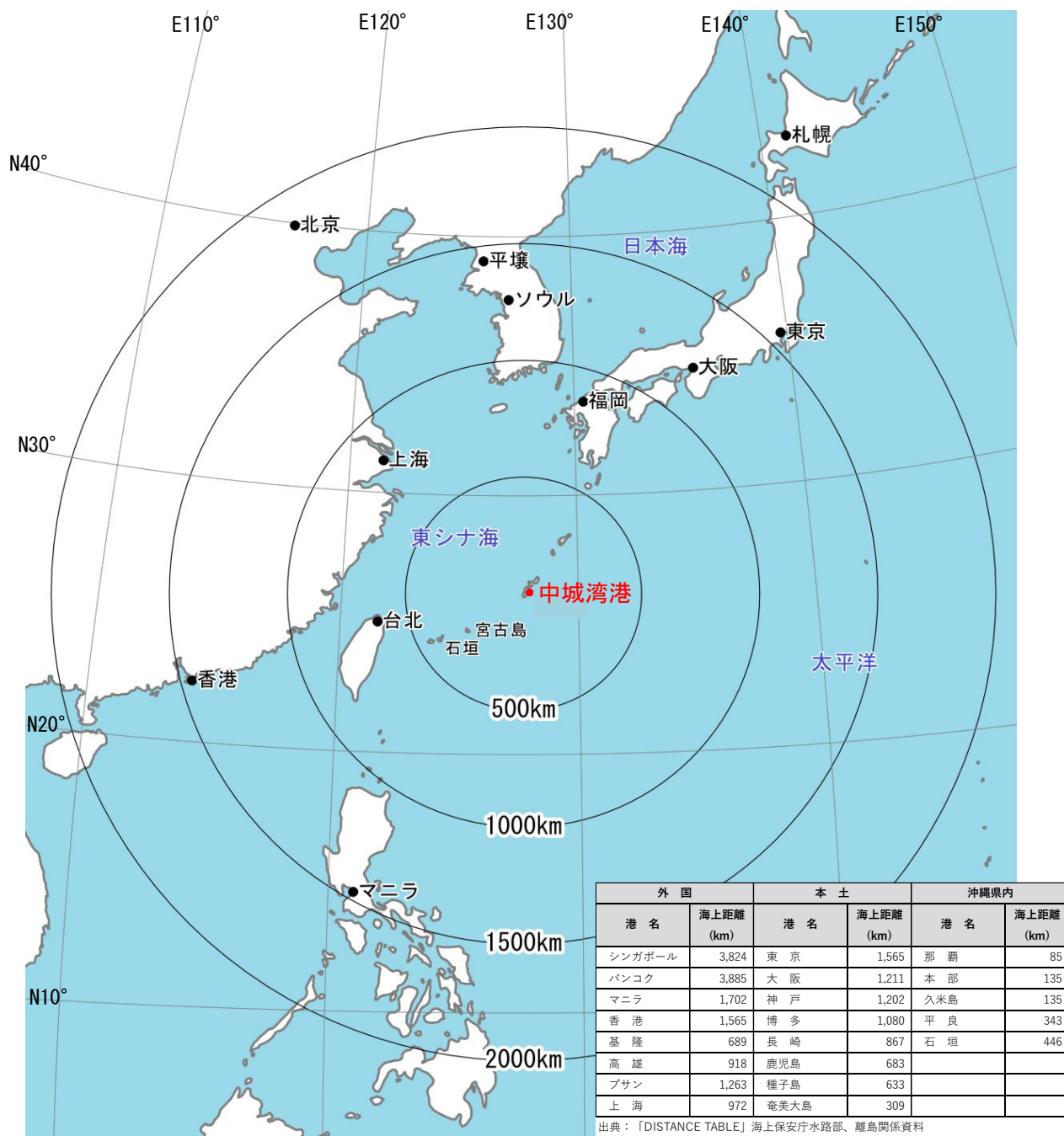


図 VIII. 2. 1 中城湾港位置図

(2) 背後地域

沖縄本島には、那覇港・中城湾港・金武湾港及び運天港の4つの重要港湾がある。そのうち、那覇港が沖縄県全域の主要な物流・人流拠点港として機能しており、中城湾港はこれまで、エネルギー港湾としての機能の他、津堅島や久高島への連絡港及び地元漁業の拠点地としての機能を果たしてきた。近年、新港地区の人工島全体が国際物流拠点産業集積地域（うるま・沖縄地区）に指定されたことから、高付加価値ものづくり産業等の企業立地が進展しており、新たな産業と雇用の場の創出が図られている。

また中城湾港は、背後地域が3市2町2村（うるま市、沖縄市、北中城村、中城村、西原町、与那原町、南城市）にまたがる広大な港湾であり、各地域において新たな交流・賑わいを創出する新たなまちづくりが進められている。



図 VIII. 2. 2 背後地域

(3) 人口動向

沖縄県の人口は昭和55年に110万人を超え、令和元年には約147万人に達した。また、人口の増減率では、昭和55年以降は全国の人口増減率よりも高い水準で推移しており、平成27年以降は全国で減少に転じたのに対し、沖縄県は増加で推移している。

表 VIII. 2. 1 沖縄県の人口の推移

単位：人

市町村	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
全国	117,060,396	121,048,923	123,611,167	125,570,246	126,925,843	127,767,994	128,057,352	127,094,745	126,146,099
沖縄県	1,106,559	1,179,097	1,222,398	1,273,440	1,318,220	1,361,594	1,392,818	1,433,566	1,467,480
背後圏	271,873	294,879	309,857	330,958	347,426	360,250	371,701	388,713	406,903
うるま市	91,285	98,539	101,911	105,228	109,992	113,535	116,979	118,898	125,303
沖縄市	94,851	101,210	105,845	115,336	119,686	126,400	130,249	139,279	142,752
北中城村	12,210	13,011	13,707	15,023	15,745	15,790	15,951	16,148	17,969
中城村	10,346	10,765	12,060	13,832	14,987	15,798	17,680	19,454	22,157
西原町	16,305	21,981	25,489	28,516	32,777	33,733	34,766	34,508	34,984
与那原町	12,752	13,311	14,009	14,850	15,109	15,343	16,318	18,410	19,695
南城市	34,124	36,062	36,836	38,173	39,130	39,651	39,758	42,016	44,043

資料：総務省統計局「国勢調査」

1)うるま市：平成17年4月1日具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併。合併以前の年は各市町村の合計値。

2)南城市：平成18年1月1日玉城村・知念村・佐敷町・大里村が合併。合併以前の年は各市町村の合計値。

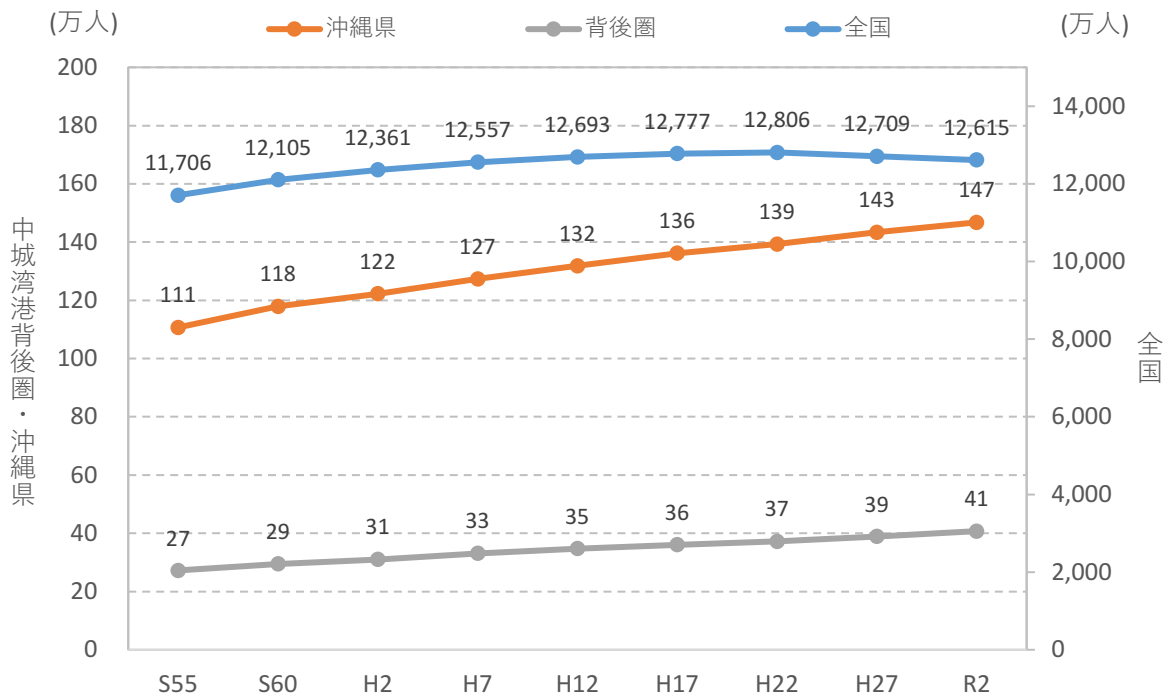


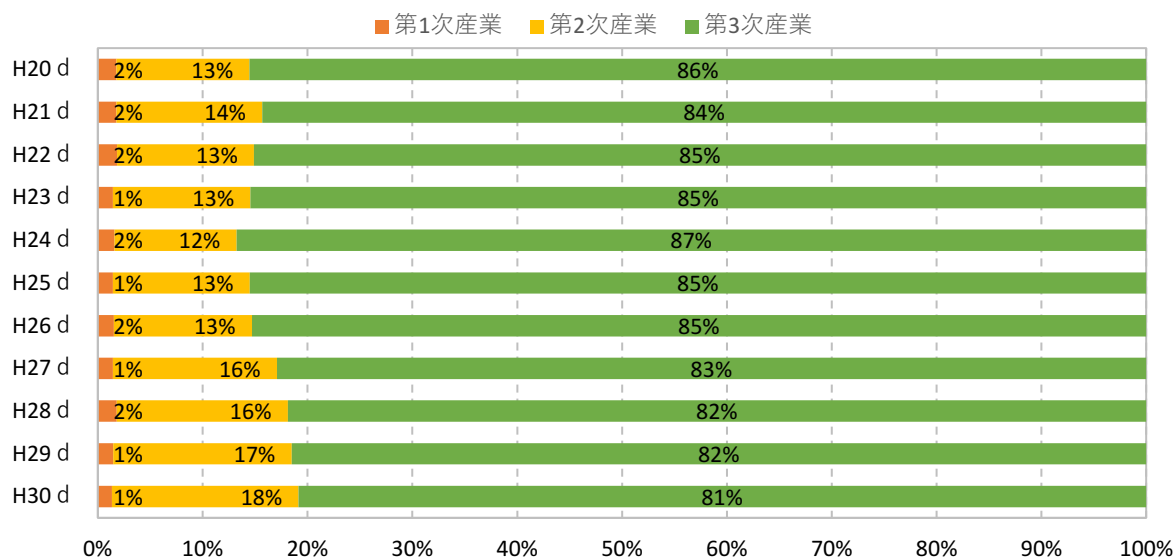
図 VIII. 2. 3 沖縄県の人口の推移

(4) 産業構造

①就業構造

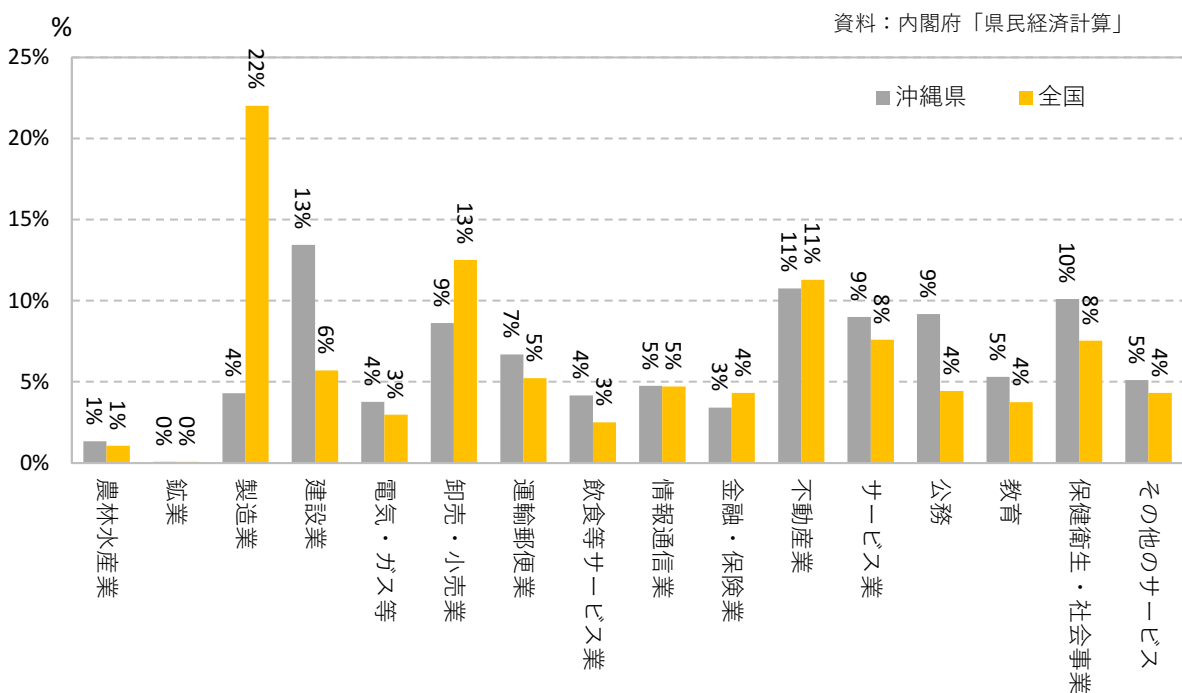
産業構造の動向は、第1次産業が減少傾向で推移し、第2次産業は平成26年度まではほぼ横ばいであったが平成27年度以降増加に転じている。第3次産業は、平成26年度まで横這い傾向にあったが、平成27年度に減少して以降横這いで推移している。

沖縄県の産業構造の特徴は、全国と比べ第3次産業の構成比が高く第2次産業が低いことである。また、建設業の構成比が高く製造業の構成比が低いことである。



資料：内閣府「県民経済計算」

図Ⅷ.2.4 沖縄県の産業構造の推移



資料：内閣府「県民経済計算」

図Ⅷ.2.5 産業別総生産の比較(平成30年度)

②工業

沖縄県の工業統計調査によると、令和元年における県全体の事業所数は1,113事業所、従業員数は26,706人、製造品出荷額は約4,986億円である。

背後圏においては、事業所数で県全体の約34%、同様に従業員数約38%を占めている。

表Ⅷ.2.2 沖縄県および背後圏の工業の概要

単位：人、万円

区分	沖縄県 (A)	背後圏 (B)	シェア (B/A)	沖縄市	うるま市	北中城村	中城村	西原町	南城市	与那原町	
S55	事業所数	2,546	565	22.2%	236	184	14	11	57	36	27
	従業者数(人)	24,493	6,677	27.3%	1,652	1,889	262	397	1,894	407	176
	製造品出荷額等(万円)	58,981,282	35,342,958	59.9%	1,460,195	12,697,530	209,753	6,065,557	13,979,571	820,519	109,833
S60	事業所数	2,870	657	22.9%	243	195	15	17	75	85	27
	従業者数(人)	26,564	8,145	30.7%	1,874	1,987	368	504	2,507	665	240
	製造品出荷額等(万円)	58,085,030	25,763,354	44.4%	2,156,171	8,215,365	269,549	2,373,223	11,349,028	1,310,435	89,583
H2	事業所数	3,052	677	22.2%	247	192	16	26	85	87	24
	従業者数(人)	27,988	8,274	29.6%	1,854	1,970	341	657	2,394	874	184
	製造品出荷額等(万円)	54,978,181	18,841,056	34.3%	2,111,683	4,625,176	283,906	1,854,594	8,321,944	1,548,564	95,189
H7	事業所数	2,829	661	23.4%	228	182	23	29	90	79	30
	従業者数(人)	28,352	9,163	32.3%	2,001	2,242	364	551	2,960	833	212
	製造品出荷額等(万円)	53,587,799	20,250,243	37.8%	3,150,864	5,201,620	281,565	910,248	8,754,518	1,825,576	125,852
H12	事業所数	2,767	658	23.8%	220	168	19	29	100	92	30
	従業者数(人)	27,673	8,989	32.5%	1,959	1,891	359	501	3,117	984	178
	製造品出荷額等(万円)	65,587,117	31,999,401	48.8%	3,481,946	11,443,881	198,095	758,480	13,834,174	2,161,811	121,014
H17	事業所数	2,752	632	23.0%	175	196	12	29	104	89	27
	従業者数(人)	26,869	8,886	33.1%	1,512	2,565	84	570	2,903	1,121	131
	製造品出荷額等(万円)	52,403,251	26,631,705	50.8%	3,406,889	3,108,337	34,704	737,816	17,162,168	2,085,338	96,453
H22	事業所数	1,262	403	31.9%	102	131	4	24	82	50	10
	従業者数(人)	24,830	9,190	37.0%	1,417	2,765	74	518	3,262	1,071	83
	製造品出荷額等(万円)	56,546,014	31,573,645	55.8%	3,654,526	3,540,290	32,314	922,979	21,189,496	2,139,758	94,282
H27	事業所数	1,239	391	31.6%	84	128	5	27	78	59	10
	従業者数(人)	23,558	8,622	36.6%	1,352	2,851	84	458	2,601	1,182	94
	製造品出荷額等(万円)	54,406,939	26,313,516	48.4%	3,714,691	4,387,208	X	970,282	14,551,812	2,560,578	128,945
H29	事業所数	1,116	381	34.1%	85	139	4	25	69	48	11
	従業者数(人)	24,760	9,736	39.3%	1,538	3,394	79	561	2,973	1,076	115
	製造品出荷額等(万円)	44,846,026	18,490,275	41.2%	4,067,412	5,951,565	50,369	1,387,850	4,272,812	2,553,639	206,628
H30	事業所数	1,118	384	34.3%	81	144	4	28	69	46	12
	従業者数(人)	26,042	10,082	38.7%	1,570	3,647	85	704	2,852	1,099	125
	製造品出荷額等(万円)	47,986,527	19,286,250	40.2%	4,428,449	6,151,273	48,755	1,529,948	4,341,338	2,613,992	172,495
R1	事業所数	1,113	377	33.9%	79	144	3	28	65	48	10
	従業者数(人)	26,706	10,071	37.7%	1,509	3,642	84	718	2,871	1,126	121
	製造品出荷額等(万円)	49,856,280	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：沖縄県統計資料WEBサイト「工業統計調査」

注：令和元年度の市町村別は未公表(令和4年1月時点)

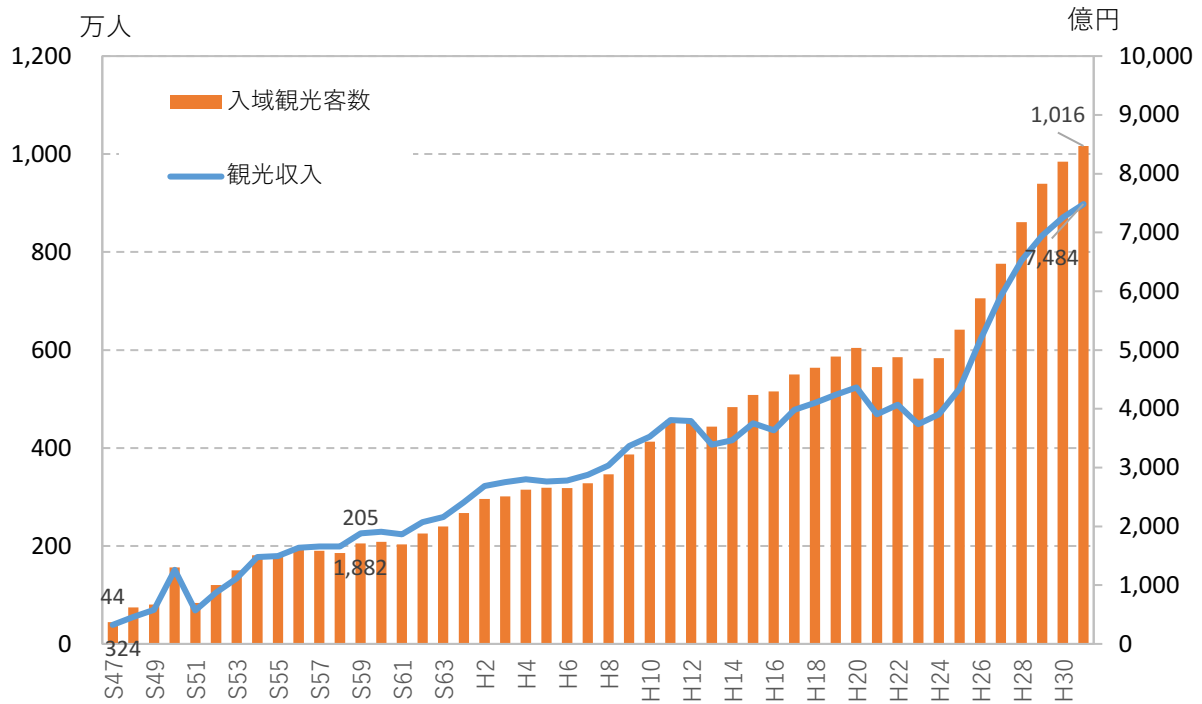
注：事業所数は、従業者3人以下の事業所を除く

注：統計表中「x」印は秘匿の数値。集計対象となる事業所が1又は2であるため、集計結果をそのまま公表すると個々の報告者の秘密が漏れるおそれがある場合に該当数値を秘匿した箇所である。また、集計対象が3以上の事業所に関する数値であっても、集計対象が1又は2の事業所の数値が合計との差引きで判明する箇所は、併せて「X」とした。なお、従業者数については、平成17年8月以降の公表より秘匿を解除している。

③観光

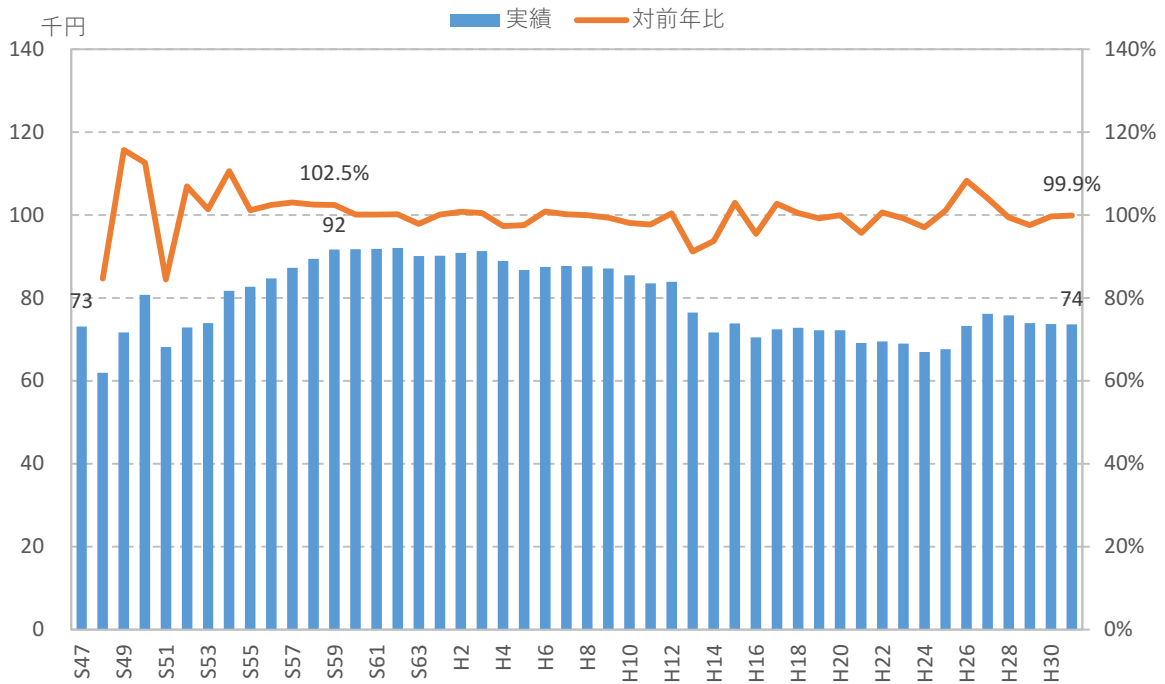
沖縄県では、昭和47年には僅か44万人であった観光入域客数が、昭和59年に200万人を突破し、以降増減を繰り返しながらも着実に増加し、令和元年には過去最高の1,016万人となっている。

これに伴い観光収入も年々増加し、令和元年には7,484億円に達している。



資料：「令和元年版観光要覧」沖縄県

図Ⅷ. 2. 6 観光入域客数と観光収入の推移



資料：「令和元年版観光要覧」沖縄県

図Ⅷ. 2. 7 観光客一人当り消費額

(5) 港湾周辺の交通網

中城湾港背後には、海岸沿いを国道 329 号及び国道 331 号が、沖縄本島のほぼ中央を沖縄自動車道が南北に通っており、これらの道路と有機的に接続する東西連絡道路の計画・整備を実施している。

東西を連絡する道路整備の推進により、中城湾港沿岸地域から那覇港を含む西海岸地域へのアクセス性が向上するなど、道路ネットワークの形成が着実に図られている。



資料：ハシゴ道路の整備計画（出典：「沖縄県の道路 2021（沖縄県土木建築部）」を加筆）

図 VIII. 2. 8 中城湾港背後の道路交通ネットワーク図

2. 2 自然条件

(1) 地勢

中城湾の湾口は、南から久高口、二ツ口及び津堅口の3つがある。そのうち二ツ口が最も広く、幅は約4km・水深は約60mである。湾内はこの二ツ口から続く水深の深い水域が、北は勝連岬付近、南は与那原付近まで続いており、大型船の入港を容易にしている。

沖縄市泡瀬から南東方向の沿岸にはリーフが発達し、西原町付近まで続いている。与那原町付近から南城市佐敷付近にかけては、リーフの発達は乏しいが、南城市知念一帯は裾礁状のリーフが発達している。

中城湾の背後には、島尻層群の泥岩や琉球石灰岩からなる標高約160~170mの崖地が湾を取り囲んでおり、その崖の直下には幅約1~2km、標高10m以下の細長い海岸平野が带状に連なっている。

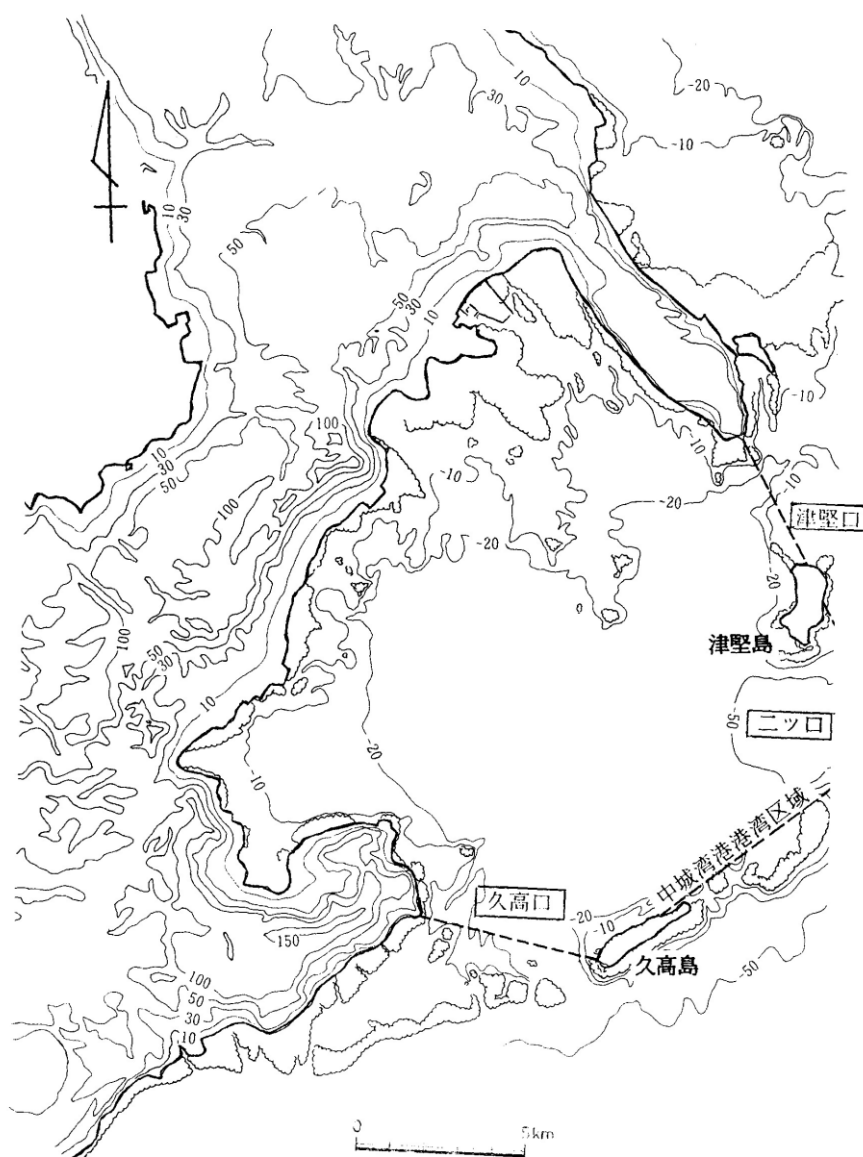


図 VIII. 2. 9 中城湾周辺地形図

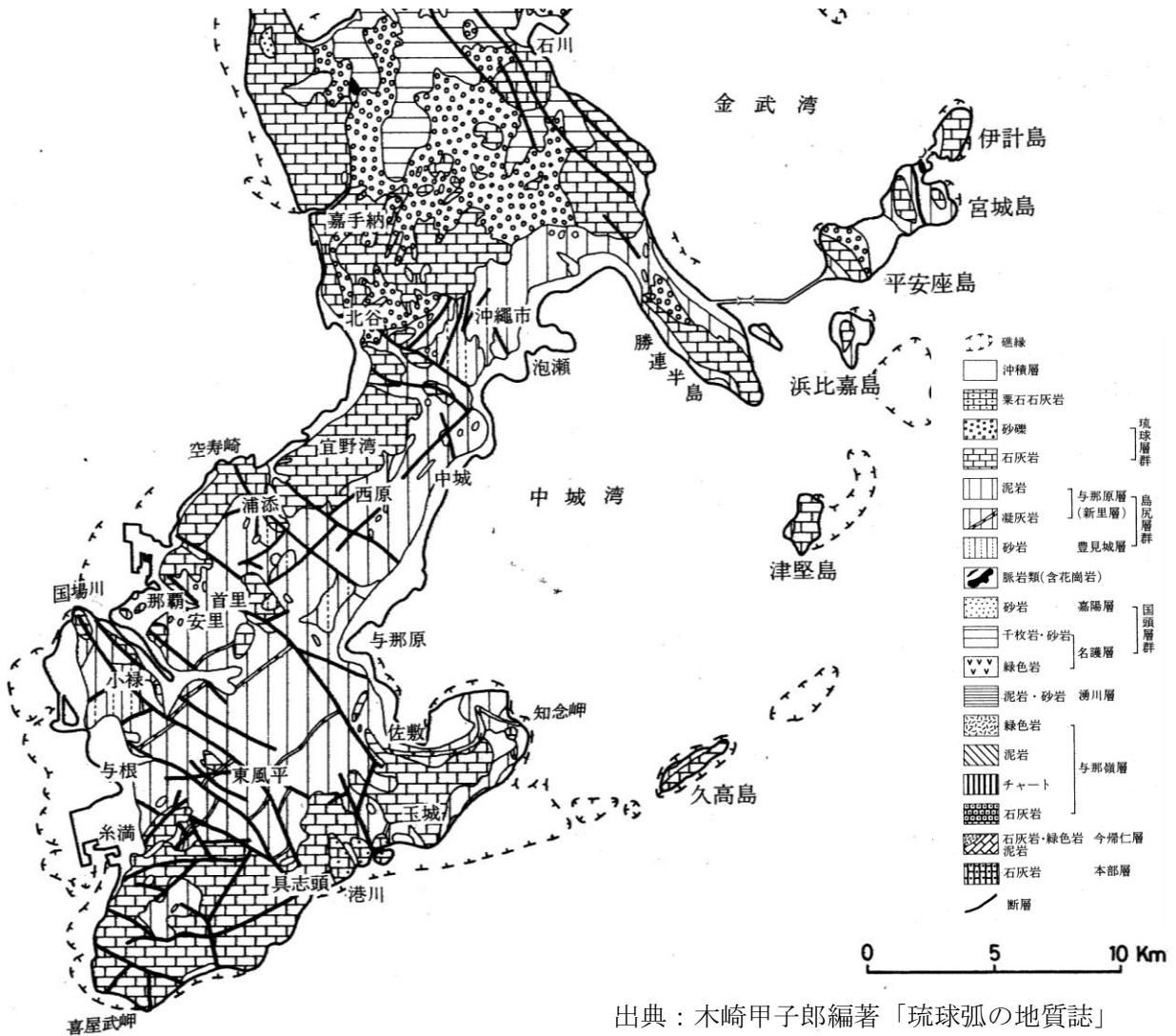
(2) 地質

沖縄本島南部一帯の地質は、基盤層が泥岩を主体とした島尻層群であり、その上を琉球層群の琉球石灰岩層と、沖積層及び現世サンゴ礁堆積物が不整合に覆っている。また、島尻層群と琉球石灰岩との間には、知念砂層と呼ばれるよく固結した石灰質砂岩があり、知念半島で一部露出している。

一方、海岸沿いの平地部は、沖積層の未固結粘土、砂、砂礫、現世サンゴ礁堆積物から成る新しい堆積物で覆われている。

中城湾の海底の地質は、沖縄市泡瀬から西原町の沿岸部及び南城市佐敷仲伊保以南には現世リーフが発達しており、その付近には広く沖積層が分布している。また、中城湾の外縁部の久高島、津堅島の付近にも現世リーフを含む沖積層が分布しており、それらの沖積層に囲まれるように、馬天地区周辺や与那原町付近の沿岸から中城湾の中央部にかけては、島尻層群及び段丘堆積物が露出している。

中城湾周辺の地質図を以下に示す。



出典：木崎甲子郎編著「琉球弧の地質誌」

図 VIII. 2. 10 中城湾周辺の地質図

(3) 気象

①気候

沖縄県は亜熱帯海洋性気候に属し、年平均気温は 23.1℃、年間の気温差は 11.9℃しかなく、4月から11月までの8ヶ月間の平均気温は 20℃を越えている。特に7～8月の平均気温は約 29℃、最低気温は約 27℃以上であり、高い湿度とあいまって暑い日が続く。また、最寒月の1月でも 17.0℃と温暖ではあるが、季節風が強くと吹く場合は肌寒く感じることもある。

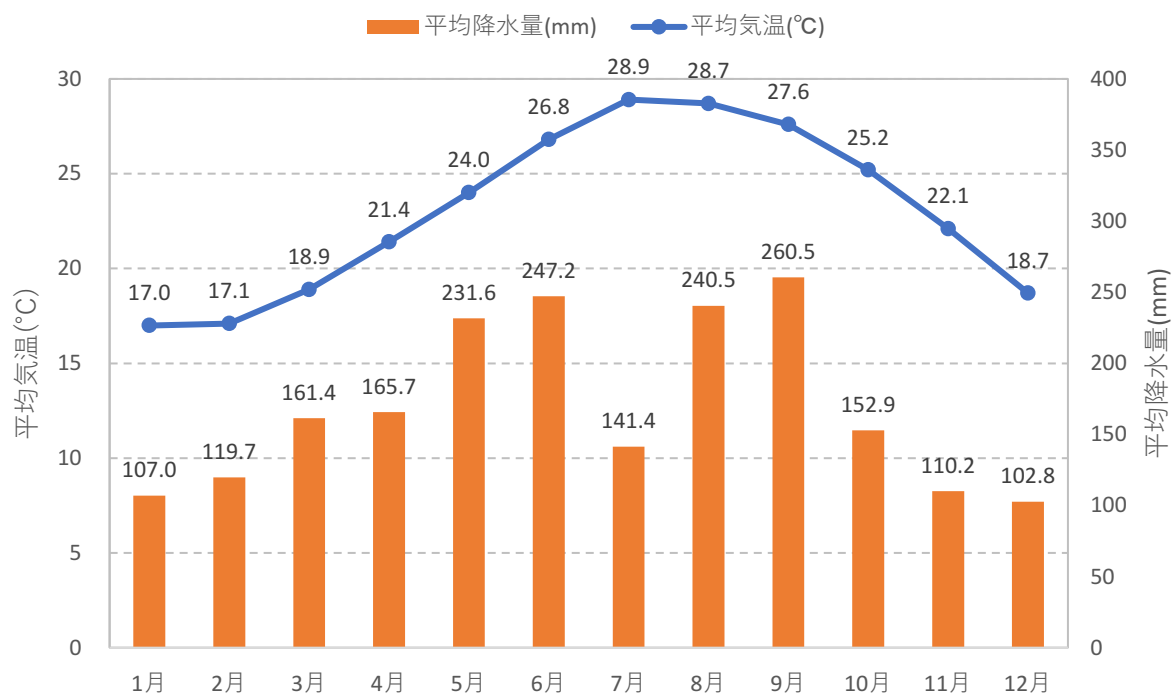
また、平均湿度は年平均 74%であり、特に梅雨期から夏にかけては 80%前後となっている。降水量は、年平均 2,041 mmと多く、特に5～6月の梅雨期及び8～9月の台風時期にまとまった降水がある。

表 VIII. 2. 3 月別平均気温・降水量等(那覇)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年	
降水量(mm)	107.0	119.7	161.4	165.7	231.6	247.2	141.4	240.5	260.5	152.9	110.2	102.8	2040.8	
気温(°C)	平均	17.0	17.1	18.9	21.4	24.0	26.8	28.9	28.7	27.6	25.2	22.1	18.7	23.1
	日最高	19.5	19.8	21.7	24.1	26.7	29.4	31.8	31.5	30.4	27.9	24.6	21.2	25.7
	日最低	14.6	14.8	16.5	19.0	21.8	24.8	26.8	26.6	25.5	23.1	19.9	16.3	20.8
平均湿度(%)	67	70	73	76	79	83	78	78	76	71	69	66	74	
平均風速(m/s)	5.4	5.3	5.2	5.1	5.0	5.4	5.3	5.2	5.4	5.4	5.5	5.2	5.3	

資料：気象庁

注：統計期間は1981年～2010年の30年間。



資料：気象庁

図 VIII. 2. 1 1 月別平均気温、平均降水量

②風況

中城湾港周辺の風況として、糸数地域気象観測所（南部地域）の風向・風速を以下に示す。

風向は、年間を通してN～E方向が卓越している。

また、風速については、0.3m/s未満が約1%、0.3～5m/s未満が約47%、10m/s未満で全体の約95%を占めている。15m/s以上の強風は、NEとE～SSE方向が卓越している。



図 VIII. 2. 12 風向・風速観測位置図

表 VIII. 2. 4 風向・風速発生頻度表（糸数地域気象観測所）

地点：糸数

統計期間：2015年1月～2019年12月

規定回数	43,824	
測得回数	43,815	100.0%
欠測回数	9	0.0%

風速	風向	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	calm	合計
calm																		258 (0.6)	258 (0.6)
0.3 ~ 4.9		1,488 (3.4)	1,254 (2.9)	1,320 (3.0)	1,087 (2.5)	1,236 (2.8)	1,184 (2.7)	1,547 (3.5)	2,075 (4.7)	2,618 (6.0)	1,621 (3.7)	1,155 (2.6)	621 (1.4)	694 (1.6)	666 (1.5)	711 (1.6)	1,512 (3.5)		20,789 (47.4)
5.0 ~ 9.9		2,412 (5.5)	2,306 (5.3)	2,188 (5.0)	1,900 (4.3)	1,624 (3.7)	1,328 (3.0)	1,143 (2.6)	478 (1.1)	590 (1.3)	637 (1.5)	85 (0.2)	10 (0.0)	112 (0.3)	748 (1.7)	1,502 (3.4)	3,578 (8.2)		20,641 (47.1)
10.0 ~ 14.9		176 (0.4)	257 (0.6)	186 (0.4)	158 (0.4)	111 (0.3)	114 (0.3)	104 (0.2)	20 (0.0)	13 (0.0)	6 (0.0)	2 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.0)	108 (0.2)	255 (0.6)	382 (0.9)		1,897 (4.3)
15.0 ~ 19.9		1 (0.0)	11 (0.0)	34 (0.1)	18 (0.0)	27 (0.1)	22 (0.1)	26 (0.1)	4 (0.0)	2 (0.0)	2 (0.0)	1 (0.0)			4 (0.0)	3 (0.0)	6 (0.0)		161 (0.4)
20.0 ~ 24.9			3 (0.0)	1 (0.0)	9 (0.0)	6 (0.0)	13 (0.0)	14 (0.0)											46 (0.1)
25.0 ~			1 (0.0)		11 (0.0)	6 (0.0)	4 (0.0)	1 (0.0)											23 (0.1)
合計		4,077 (9.3)	3,832 (8.7)	3,729 (8.5)	3,183 (7.3)	3,010 (6.9)	2,665 (6.1)	2,835 (6.5)	2,577 (5.9)	3,223 (7.4)	2,266 (5.2)	1,243 (2.8)	633 (1.4)	809 (1.8)	1,526 (3.5)	2,471 (5.6)	5,478 (12.5)	258 (0.6)	43,815 (100.0)

注：上段は出現回数、下段()内は出現率(%)を示す。

資料：「気象統計情報」気象庁HP

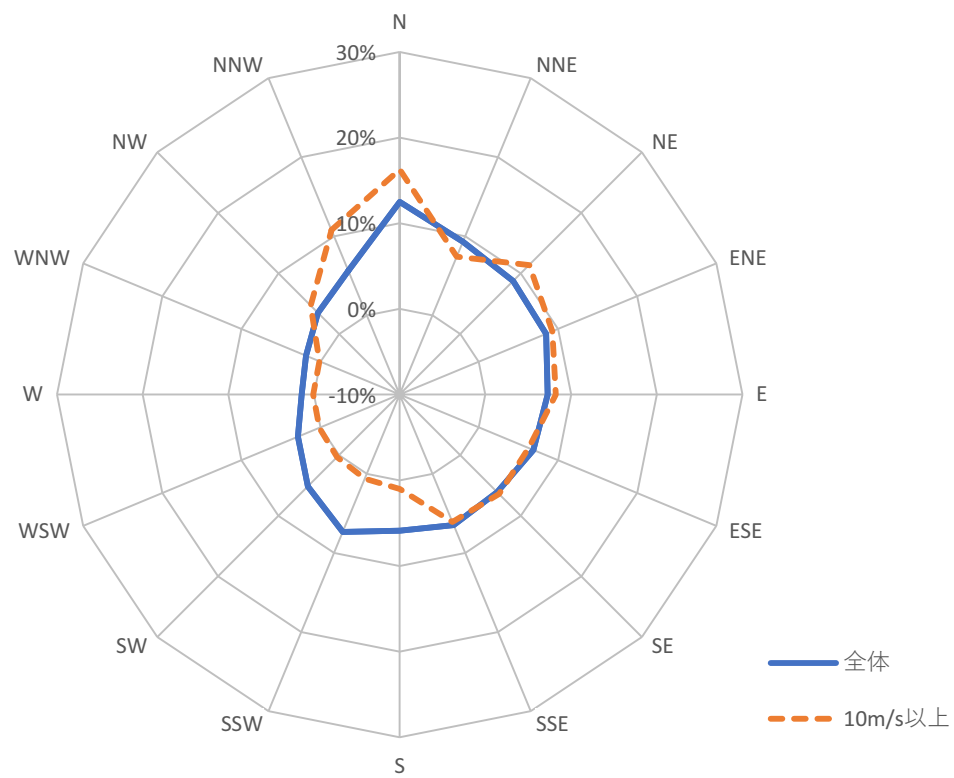


图 VIII. 2. 1 3 風向、風速別発生頻度図 (糸数地域気象観測所)

③台風

沖縄近海は台風の常襲地帯であり、年平均 7.4 個が沖縄県に接近している。また、沖縄本島に影響のあった平成 25 年～平成 29 年までの主な台風は表 VIII. 2. 6 のとおりである。

表 VIII. 2. 5 台風の発生数と接近数の平年値

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
項目													
台風発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
沖縄県への接近数				0.0	0.4	0.6	1.4	2.2	1.7	0.9	0.3	0.1	7.4

注：沖縄県への接近：台風の中心が、那覇、名護、久米島、宮古島、石垣島、西表島、与那国島、南大東島のいずれかの気象官署等から300km以内に入ることをいう。

平年値とは、1981年から2010年までの30年を平均した値。

資料：沖縄気象台、<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/data/toukei/typn.html>

表 VIII. 2. 6 那覇から 300km 以内を通過した台風の記録

年	月	台風番号	地名	最低海面気圧		最大風速		最大瞬間風速		総降水量	
				観測値 (hPa)	起時 日.時:分	観測値 (m/s)	起時 日.時:分	観測値 (m/s)	起時 日.時:分	観測値 (mm)	起時 日.時～日.時
H29	9	1718	那覇	1001.4	13.16:16	ESE 17.4	13.16:19	SE 28.3	13.19:32	63.5	13.00～14.24
	10	1722	那覇	976.7	28.11:25	WNW 22.4	28.13:38	NE 37.6	28.08:13	158.0	27.00～29.24
H28	9	1612	那覇	1002.5	01.16:25	ENE 8.4	01.15:08	ENE 13.1	01.16:06	0.0	01.00～02.24
	9	1613	那覇	1003.1	06.15:20	SW 19.1	06.15:20	SSW 31.3	06.14:37	171.0	06.00～07.24
	10	1618	那覇	992.7	03.21:47	SE 20.7	04.00:10	SE 33.6	03.23:10	21.5	03.00～04.24
H27	5	1506	那覇	1004.5	12.04:46	SSW 16.1	12.06:20	SW 24.6	12.06:55	9.0	11.00～12.24
	7	1509	那覇	979.4	10.03:47	E 27.0	10.01:36	SE 41.2	10.05:55	186.0	9.00～11.24
	7	1512	那覇	1004.5	25.09:07	W 12.2	25.15:44	W 18.1	25.15:46	3.0	24.00～25.24
	8	1515	那覇	989.6	24.11:48	SSW 21.2	24.13:01	SSW 33.1	24.13:00	76.0	22.00～24.24
H26	6	1406	那覇	995.9	11.17:27	SW 9.7	11.02:18	SW 15.5	11.02:14	117.5	11.00～12.24
	6	1407	那覇	1003.7	17.17:17	SSW 14.2	17.13:56	SSW 19.8	17.13:20	-	17.00～17.24
	7	1408	那覇	979.6	8.14:30	SE 33.1	8.14:29	SSE 50.2	8.14:29	408.5	7.00～9.24
	7	1412	那覇	986.0	1.03:09	SW 22.9	1.11:14	SW 34.2	1.10:58	139.0	30.00～1.24
	9	1414	那覇	1001.5	7.03:57	NNW 9.8	7.13:27	NW 15.4	7.10:42	39.5	6.00～8.24
	10	1419	那覇	955.2	11.23:38	ENE 25.2	10.21:16	N 38.3	11.18:45	257.0	10.00～12.24
H25	6	1304	那覇	1000.6	20.02:00	S 15.2	20.08:42	S 24.4	20.08:33	30.0	18.00～20.24
	8	1312	那覇	993.1	21.02:45	ESE 16.4	21.02:50	SE 25.2	21.08:32	44.5	19.00～22.24
	9	1317	那覇	1003.1	3.03:26	SSW 14.5	2.13:11	SSW 20.9	2.12:34	29.5	2.00～3.24
	10	1323	那覇	991.7	5.14:55	E 22.0	5.16:11	E 33.6	5.17:30	141.0	4.00～6.24
	10	1324	那覇	994.6	7.15:20	W 16.1	7.17:10	WNW 23.4	7.15:56	11.0	7.00～7.24
	10	1327	那覇	991.2	24.15:17	NNW 17.6	24.23:08	NNW 29.6	24.22:32	30.0	22.00～25.24

注：1 観測値等は、台風の中心が300km以内に入った気象官署および特別地域気象観測所のみ掲載した。

2 台風の経路は、気象庁予報部予報課太平洋台風センターのベストトラック（事後解析台風資料）による。

3 “)”付きの値は準正常値（欠測を含むが許容する資料数を満たす）を意味する。

資料：沖縄気象台「沖縄地方顕著現象報告」

(4) 海象

① 波浪

中城湾湾口部の津堅島沖で観測された波高は、下表のとおりである。

波高については、2.0m以下が全体の約92%であり、特に0.5~1.5mの波高が全体の約76%を占めている。また、波向はENE~SEが卓越している。

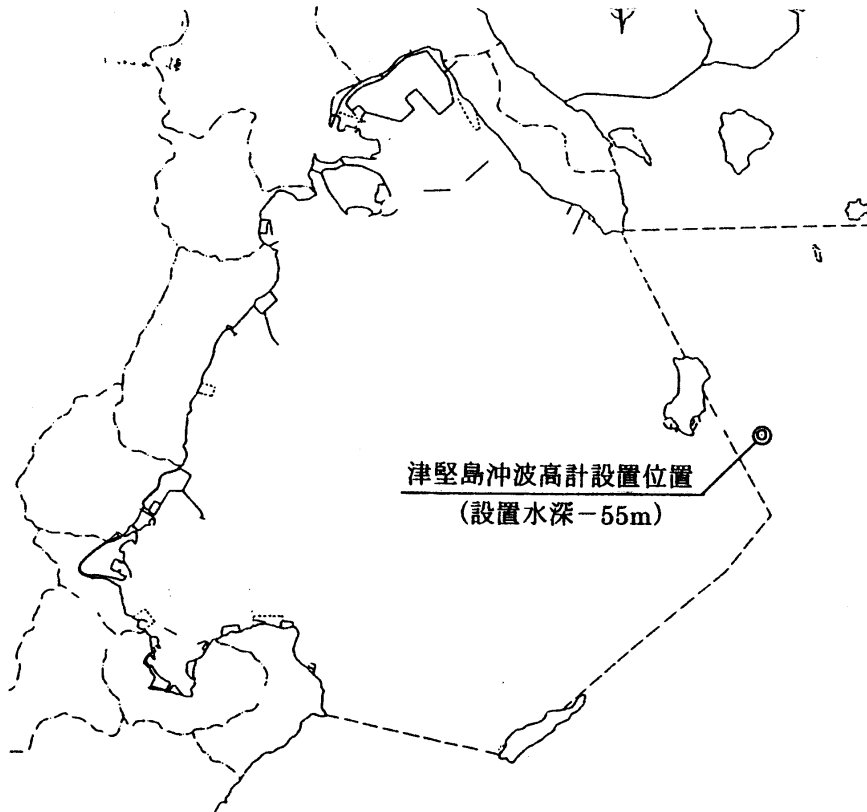


図 VIII. 2. 15 波浪観測位置図(津堅沖)

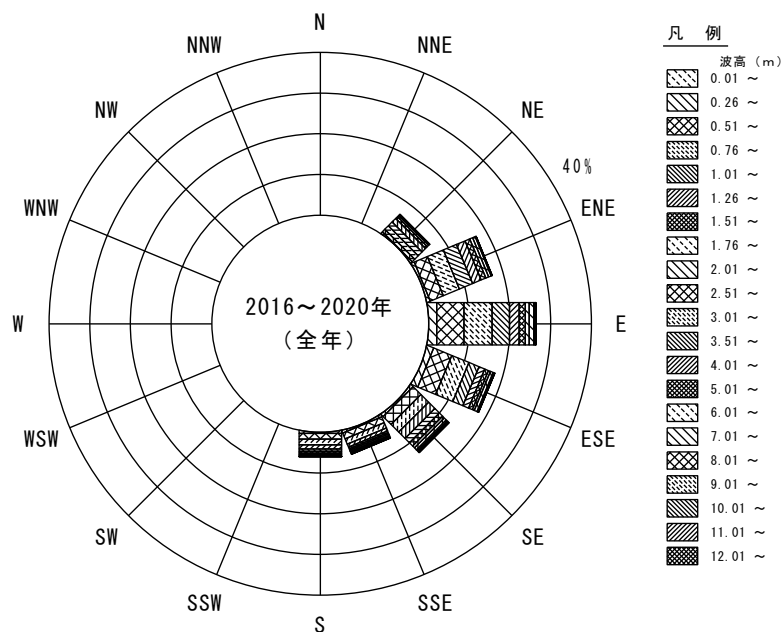


表 VIII. 2. 7 波浪出現頻度図(津堅沖)

②潮位

中城湾港における潮位は以下のとおりである。

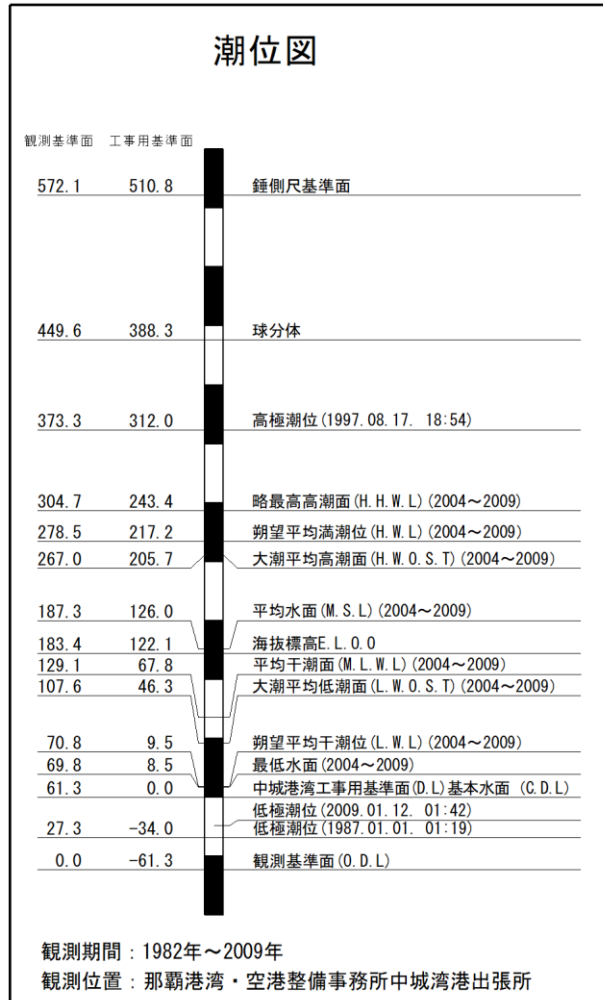


図 VIII. 2. 16 泡瀬検潮所潮位

③潮流

中城湾港及び周辺海域の流況については、図 VIII. 2. 17～図 VIII. 2. 18に示すとおりである。

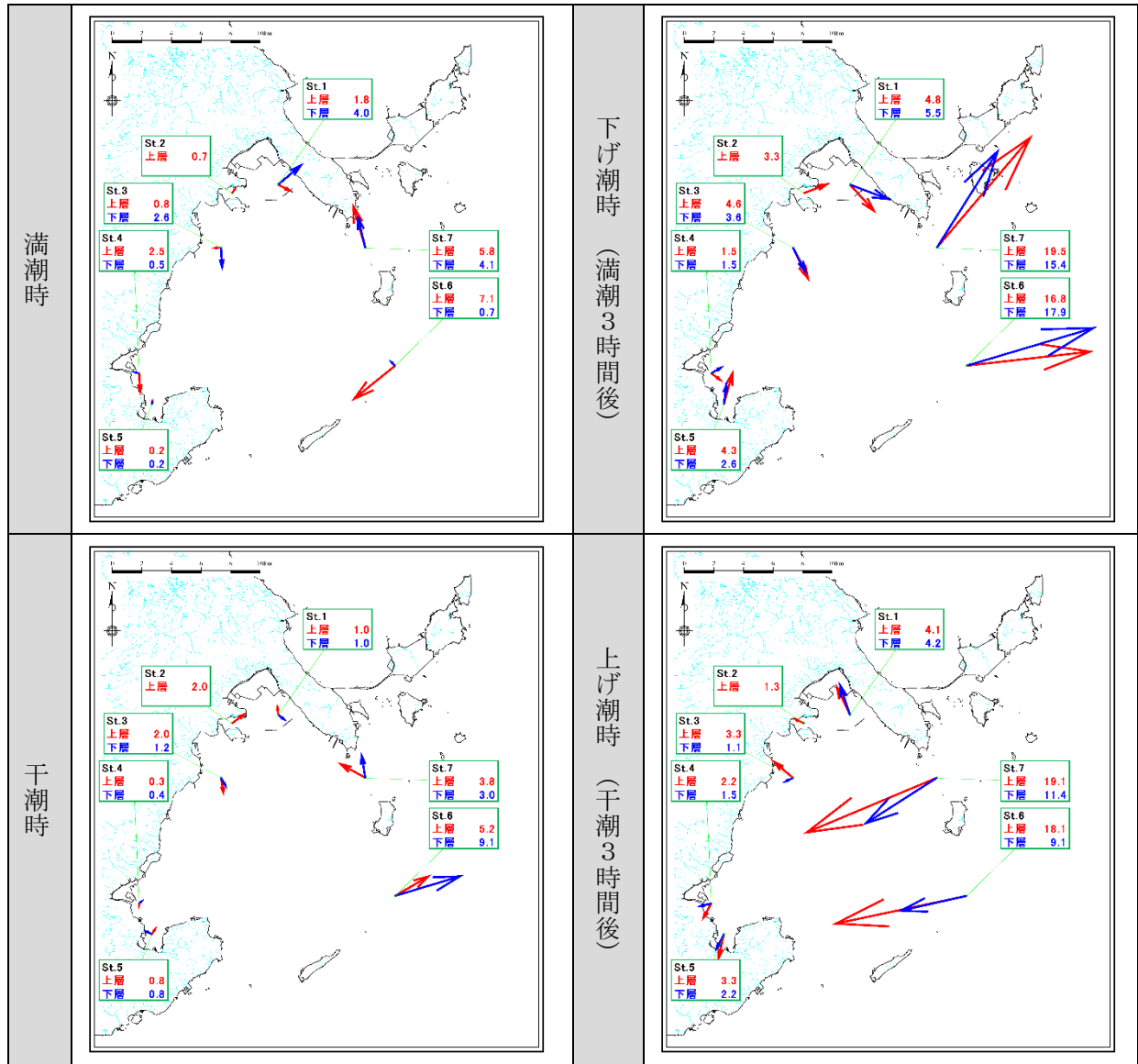


図 VIII. 2. 17 平均大潮期流況分布(夏季調査)

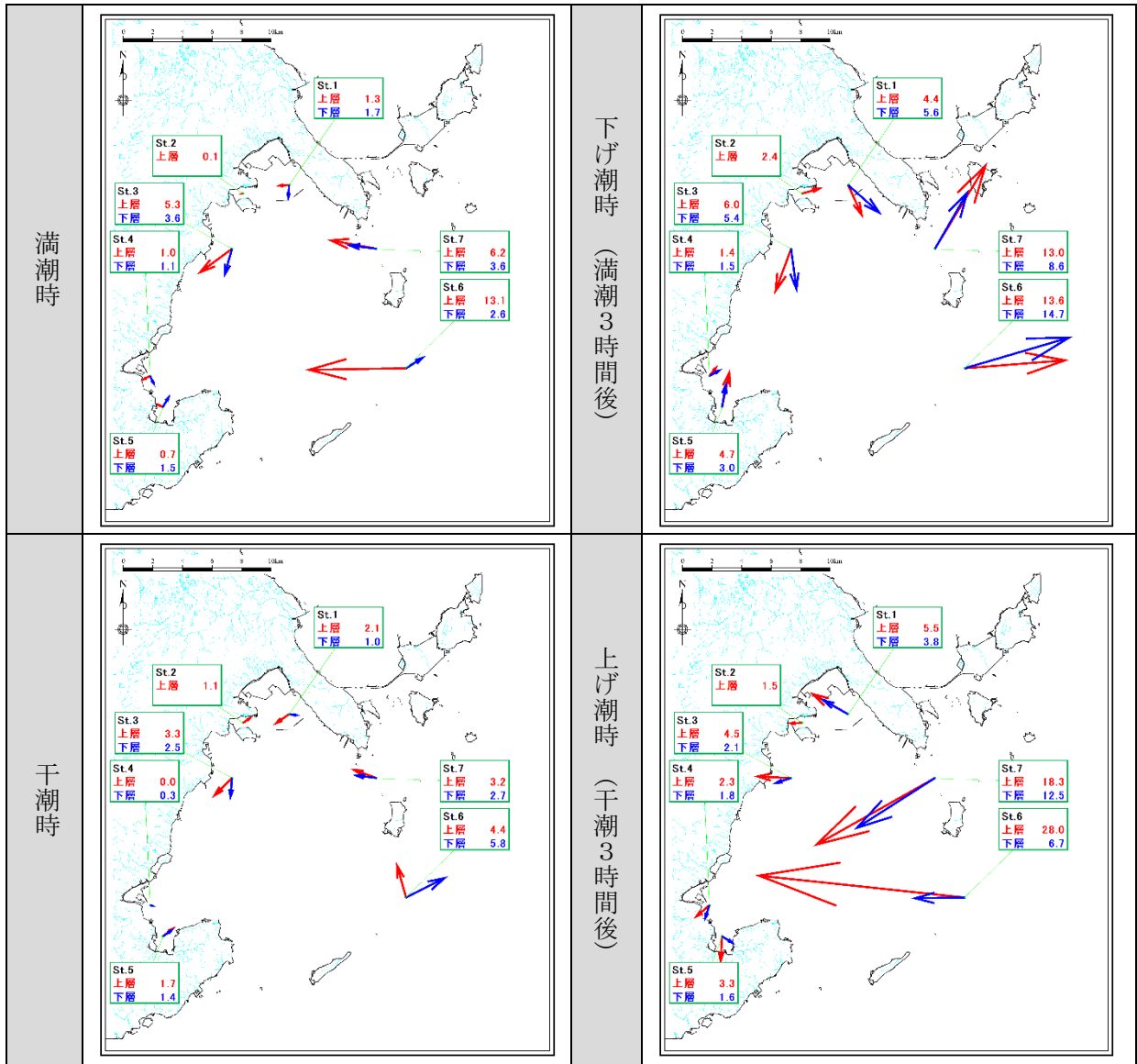


図 VIII. 2. 18 平均大潮期流況分布 (冬季調査)